

チリ 90年以上にわたる果実輸出の将来の課題

[FreshPlaza 2025年2月21日](#)

90年以上にわたる果実輸出: チリは将来の課題にどのように向き合っているか

フルタス・デ・チリ(チリ果実輸出業者協会)のイバン・マランビオ会長は、「チリは世界最大の生鮮果実輸出国の1つであり、南半球で卓越した地位にある。その品揃えは、生食用ブドウ、リンゴ、サクランボ、スモモ、キウイ、ブルーベリー等である。チリの気象条件は、色と風味の良い高品質果実の生産を可能にする。この自然の利点は、国際市場での我が国の地位獲得に貢献しているが、これらの市場へのアクセスを得ることに困難が無かった訳ではない」と述べている。(以下「」は同氏の話)

チリ産果実の輸出先は、アジア(30%)、北米(30%)、ヨーロッパ(20%)、中南米(20%)に分散している。しかし、中国等の主要市場までの距離が課題となっている。「中国は優先的な輸出先であるが、輸送時間が果実の品質に影響を与える可能性がある。」

この輸送時間を短縮するために、通常30日ではなく21日でサクランボを輸送するチェリーエクスプレス等の解決方法が開発された。それでも、1,300コンテナの果実に影響を与えた最近の貨物船の座礁事故のような出来事は、このセクターの脆弱性を映し出している。「これは、多くの生産者に影響を与える難しい状況である。保険の適用範囲と補償が不明確なことは、損失を軽減し、セクターの財務の安定性を維持するためにそのようなメカニズムに依存している輸出業者への余分な圧力となっている。」

長引く干ばつにより、生産者は水効率化対策の実施を余儀なくされている。「責任ある水の使用は、降霜や熱波から作物を保護する技術とともに不可欠である。」

もう一つの重要な側面は、均一な品質を保証するための果実の選別・梱包プロセスの改善である。「サクランボの一箱一箱が国際基準を満たすように、高度な技術が実践されている。」

果実セクターは、地域経済に大きく貢献している。推定によると、それは同国のGDPの2~3%を占めている。「新しい市場の開拓と商業的な安定性が、このセクターの成長の決定要因となるだろう。」

消費動向としては、より甘く歯ごたえのある品種に対する需要が高まっている。さらに、廃棄される果実は最小限である。

300社以上の企業を結集し、90年の経験を持つ同協会は、主要市場でのチリ産果実の存在感を強化し、業界の課題に対応するための戦略を引き続き模索している。「重要な課題は、果実が最適な状態で消費者に届くことを確保し続けることである。」

執筆者: ダイアナ・サジャミ